

第1章

ショックの対応

本章の肝

1. ショック≠血圧低下
2. ショックの鑑別は“SHOCK”で覚える
3. 酸素供給量＝心拍出量×動脈血酸素含有量

エピソード1



ピンチの研修医

チーレジ : 昨日の当直は大変だったようだね。お疲れさま。ちなみに血圧低下の患者さんは、どう対応した？

研修医 : はい、診察時の収縮期血圧が80 mmHg ぐらいで、本人は元気そうでした。全身状態も安定していたので、とりあえず生理食塩水100 mL/hr で朝まで経過観察としました。

チーレジ : その後は大丈夫だったの？

研修医 : その後は確認していません。

チーレジ : え、大丈夫!? 一緒に見に行こう。

経過表を見ると、血圧70 mmHg 前後で徐々にベースが下がっている！朝になり、担当医が大急ぎでショックの対応に追われる事態となっていた。

チーレジ : この症例のショックの原因はどう考えたかな？

研修医 : えーっと……うーんと。原因がわかりませんでした。が、脊髄反射的に補液で乗り切ろうと思ったんです。

チーレジ : 原因がわからなくてとりあえず補液したの？ そうか。ショックの対応について学ぶ必要があるね。

研修医 : ショックの対応ですか……。頭ではショックの分類はわかっているつもりでも、どう対処していいかわかりません。ぜひ、教えてください。

チーレジ : よし、それでは一緒に考えてみよう。